

いつまでも変わらないで欲しい

益田東高等学校 三年 宮本 容子

私の頭の中はいつもクエスチョンマークでいっぱいになります。家族でご飯を食べに行くとき必ず見つける、周りのテーブルの家族。「ねえ、左手は出さなくていいの？お茶碗は持たないの？お椀は？箸の持ち方それでいいの？」

スーパーでの買い物。「ねえ、何でお肉を突つつくの？どうして小さな子どもをほったらかしにしているの？お菓子の袋もうなめているよ！ちよっとおかしくない？」

私は小さい頃から、ご飯を食べる時は、いつも母に言われていました。「左手を出して食べなさい！足のお行儀！肘をつかない！口の中に物があるときはしゃべらない！」まだまだいっぱいありました。今でも時々「左手！」と言われる瞬間は、おじいちゃんまでもがビクツとして左手を出す始末。

保育園の行き帰りの時、自転車の後ろに乗せられて「おはようございます。行ってきます。」「帰りました。」と会う人ごとに、母と二人で言っていました。だから今の私はいろいろな人に「こんにちは。」と挨拶するのが当たり前なのです。また我が家ではちよっとしたことでも「ありがとう、おばあちゃん。」と。我が家では当たり前のことも、一歩外に出るとそうではなくなる不思議なシーンの連続です。世の中が変わって、私よりもはるかに年上の人生の先輩が、私にとつての摩訶不思議な光景の中に、違和感もなく自然に登場してくるのを見ると、がっかりしてしまいます。

知り合いの保育士さんから、「最近の子どもは朝ご飯を食べてこないのですよ。親自身が朝ご飯を食べないでギリギリまで寝ているもんで、『何か食べさせてきてくださいね。』とお願いですと、なんとコンビニでおにぎりを買って食べさせながら来るようになったり、翌朝の準備が楽だからという理由で、翌日着ていく服を着させて眠らせたり、パジャマの上に服を着せて来させたりするんです。こうした事が全然珍しくないんですよ。」という話を聞いて、私は保育士さん以上にビックリしました。

しつけ・礼儀・常識・あいさつ・道徳心…これらは育てられる家庭環境の中で自然に身につくものだと思うのに…。目上の人への尊敬・物がある事への感謝・私私が…と主張しない謙虚さ・弱いものへの思いやり、こんな当たり前のマナー…すべて自分で自分を創り出せるものが忘れがちになっている世の中、人々。大切なものを簡単に見過ごしていかない？捨ててしまっていない？人が見落としているところや、気がつかないところに大事なものが隠れていない？もつと言え、見れども見えず。」ってことない？人としてもう一度原点にもどり、身近なところを意識して生活していかなければいけないと思うのです。

よくよく考えるとおかしな話だけど、マスメディアの発達した時代なのだからこそ、子どもといわず、私達も含めた大人も大事なことをしっかり学んだらどうでしょうか。例えば、テレビ番組での「ご飯の食べ方」や「敬語の使い方」、インターネットでの「挨拶の仕方」や「冠婚葬祭のマナー」など。こんな世の中だからこそ家族みんなでご飯を食べ、一緒に買い物に行き、いろいろな人とたくさん話をして、たくさん笑い、たくさん遊ぶ。土の底から耕して、水やりと肥料と太陽の光で、でっかい花を咲かせないといけません。自然の中で自然に覚えた多くのことは人生の宝物になると思います。「人の振り見て我が振り直せ」のように、他人からもう一度自分を見つめ直したり、「三つ子の魂百まで」のように、幼いときに身につけた習慣は何歳になっても変わりません。IT機器時代になって、人と人とのコミュニケーションが乏しくなってきたとしても、私達人間は心で動く生き物です。科学がどんなに発達して、火星がどんな正体かわかったとしても、失ってはいけないもの…それが心なのです。飽食時代の日本、今こそみんなで真剣に地球の未来を考え、「今」高校生として、していいことと悪いことの判断や、身につけて磨かなければならないことを認識し自覚しないといけません。

朝、山の方に向けて太陽に手を合わせ「いやあ…天気でありがたい…。」とおじいちゃん。一日の終わりに仏壇に手を合わせ「今日もありがとうでした…。」とおばあちゃん。昔から変わってはいけないことがたくさんあると思います。その変わらぬものを守りながら、最先端技術とつきあっている。そんな世の中になりますように…。

(第九回教育長杯島根県高等学校スピーチコンテスト 準優勝)